

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根西小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価では、ほとんどの項目で成果指標を達成することができた。しかし、「学力の向上」の項目で「マイプランの成果指標」に関する取組が成果指標に届かなかった。自分の考えを表現する時間の確保や、自分と友達のことを比べながら書いたり発表したりする実践はできていたが、習熟や振り返りの時間の確保が十分でなかったとの反省が見られた。 本校は、これまで体育科の学習を通して学び続ける児童の育成を目指して校内研究を進めてきた。ここで培った学び続ける方法や意欲を他教科でも生かしていきたい。 いじめはどこにでもあることを認識し、より一層の早期発見、早期解決に努めたい。

2 学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましい三根西っ子の育成
----------	-------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成） ②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成） ③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間で共通実践や成果指標を共通理解し、毎月の校内研修で取組の推進を図る。 ・家庭学習の大切さや具体的な取り組み方を児童・保護者に伝え、家庭学習の習慣化を図る。	A	毎月の校内研や3回の研修会で、取組をふり返ったので、93%の教師が学力向上対策シートの成果指標を達成した。家庭学習便りを2回発行し、家庭学習週間に取り組んだ。児童の96%が「学習が分かる」、83%が「学年の家庭学習時間を達成できている」と答えた。	B	・後期も毎月の校内研で、学年グループ毎に取組を振り返り、全職員が共通実践を意識して取り組むことができた。年度末のCRTテストでは、国語は平均正答率 70%だったが、算数は思考・判断・表現の観点で70%を下回った。	B	・家庭学習週間などでは子供たちが自主的に学習できている。学期に1回ずつではなく、毎月行い、自主学習する機会を増やしてはどうか。 ・算数の学力向上を目標に、努力してもらいたい。	【学び部】 ・研究主任 ・学力向上コーディネーター
		○校内研究の推進	○体育に関するアンケートにおいて「体育が楽しい」と回答した児童の割合が、80%以上。	・年間指導計画の見直しを行う。 ・めあて、見通しが分かる授業を行う。 ・授業の中に、友達との関わりを重視した活動を取り入れる。	A	・年間指導計画や指導の重点等、学年部での検討から、全体での共有へという形で見直しを進めることができています。 ・学年部で複数体制での授業づくりを行いながら、学年の実態に応じた計画を立て、研究を進めることができています。	A	・体育に関するアンケートにおいて「体育が楽しい」と回答した児童の割合は75%とわずかに20%には届かなかった。しかし、「少し楽し」いまで含めると、肯定的回答は93%以上であった。 ・各学年で研修等を通して学んだことを生かし、学年の実態に応じた教員の工夫や、柔軟なルールの改変等を取り入れた授業づくりが積極的に行われていたため、児童はめあてや見通しをしっかりとって学習できていた。	A	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳に関するアンケートを年に2回実施し、変容をみる。 ・学級活動や縦割り活動を行い、自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	B	・「道徳アンケート」を11月に行った。2月に2回目を取り、変容を見ていく。 ・授業参観でどの学年も年に1回は道徳をして、通信等で発信を行い、家庭と情報共有を行った。 ・友達のいい所を書く「ほかほかの木」活動で自己のよいところに気付くことができた。	A	・「道徳アンケート」では、肯定的な回答をした児童が80%以上であった。 ・授業参観でふれあい道徳を行ったり、通信でお知らせしたりし、家庭と情報共有を行うことができた。 ・縦割り活動や行事等で、異学年間での児童の良さや頑張りにも気付くことができる児童が増えた。	A	・家庭や地域でも自然と「ほかほか言葉」を実践できていることに感動する。 ・縦割り活動があるので、学年を超えての交流ができていくのがいいと思う。	【ほかほか部】 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的に対応できていると回答した教員85%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・いじめの避難訓練の授業を行う。	A	・毎月いじめアンケートを取り、いじめの早期発見に役立てるようになっている。 ・いじめについての職員研修会を行い、いじめの認識の共通理解を図ることができた。また、生徒指導連絡会で、必要に応じて話し合いを行った。 ・各学級で「いじめの避難訓練」の授業を行うことができた。	A	・毎月いじめアンケートを取り、その都度担任が聞き取りを行い、いじめの未然防止に取り組んでいた。 ・年間を通して、各学級の生活の様子やいじめ事業を報告していた。組織的に対応することができた。肯定的な回答をした教員は100%である。 ・「いじめの避難訓練」の授業を行ったことで、各学級で担任に気兼ねなく記事相談する児童が増えた。相談しやすい雰囲気作りにも努めていくことができた。	A	・先生方の努力のおかげで、毎日楽しく登校できている。 ・いじめについてのアンケート等、些細なことでも伝えられるので、いじめ防止につながっていると思う。	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・キャリアパスポートの活用を図り、年度初めに立てた年間の目標に対して、振り返りを行い、達成度を自己評価をさせる。 ・「夢の教室」や道徳を通して、児童に夢をもつことや、夢に向かって努力することの大切さを、実感させる。	B	・キャリアパスポートの活用を図り、年度初めに立てた年間の目標に対して、計画的に振り返りを行い、達成度を自己評価をさせた。 ・児童の94%が「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答し、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は85%だった。	A	・キャリアパスポートの年間目標に対する振り返りや、前期と後期で一致したことで、年間の目標を意識し、自己評価がしやすくなった。 ・「夢の教室」や「アスリート派遣事業」の活用、各学年の道徳の授業等を計画的に行い、夢に向かって努力することの大切さが伝わった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」のどちらも、9割の児童が肯定的な回答をしている。	A	・学校にいる時間が長い中、親よりも熱心に子供と向き合っていたり感謝している。家庭でも、三根西小の先生方はたくさんほめてくれると話している。 ・9割の子供が肯定的というのは、子供たちと先生方との良い関係が築けているからだと思う。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と考える児童80%以上	・食育の授業を年間1回以上、各学級で行う。その際、栄養教諭とチームティーチングを行い、専門性を高める授業を仕組むようにする。 ・朝の健康観察で、朝食の内容を含めた喫食の実態把握を定期的に行う。	B	・食育の授業は、2年生は養護教諭とのチームティーチングで実施している。他学年は、栄養教諭との授業を実施予定である。 ・朝の健康観察で、朝食の実態把握のために、アンケートを実施したり、健康観察時に呼び掛けを行ったりしている。	A	・全国学校給食週間の取り組みの一環として、全クラスで食育に関する授業を実施した。 ・朝の喫食の実態把握は、年間を通して、健康観察時の呼び掛けをしたり、アンケート実施を行ったりすることでできている。アンケートでは、「健康に食事は大切である」と考える児童は89%、朝食の喫食率は93%であった。朝食を摂っていない児童は、ほぼ限定されているので、保護者にも啓発している。	A	・朝食を食べているかのアンケートは、家庭で気付かされることも多い。メニューの例なども載せてもらえると助かる。 ・アンケートを実施することで、朝食を摂ることの大切さが子供たちに伝わると思う。	【ほかほか部】 ・食育担当 ・体育主任
	●運動習慣の改善や定着化	●「休みに外遊びをする児童の割合85%以上	・休み時間の遊びイベントをスポーツ委員会を中心に企画し、実行する。月に1回行う。 ・佐賀県スポーツチャレンジの周知と全学年への参加を呼びかける。	B	・スポーツテストの種目の体験会を実施したり、一輪車カードを作成したりして、外遊びのきっかけとなるような活動を仕組むことができた。 ・「休みに外で遊んでいる」と答えた児童は79%だった。	A	・「休みに外で遊んでいる」と答えた児童は、2年生が94%、3～6年生は81%だった。体育行事の充実や委員会での取り組みはもちろん、校内研究による体育の授業改善が進み、運動に親しみ児童が確実に増えている。	A	・遊具が充実しており、広い運動場でのびのびと運動ができていと思う。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○タイムマネジメントを意識して、業務改善に努めた職員が80%以上	・定時退勤日や学校閉庁日を設定する。 ・衛生委員会等を通して、勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。 ・校務シェアボードや校務サーバー等のICT機器の活用を推進し、会議の時間短縮や分掌事務の効率化を図る。	A	・校務シェアボードを活用し、職員連絡会や運営委員会等の会議の回数や時間を大幅に削減できた。 ・時間外在校等時間の平均が、7か月以上前年度より減少している。 ・アンケートで90%以上の職員が、タイムマネジメントを意識して、業務改善に努めることができた」と答えた。	A	・校務シェアボードの回復機能の活用による会議の削減や、通知表作成期間の短縮授業などにより、放課後の時間を業務に当てやすくなった。 ・時間外在校等時間の平均が、10か月以上前年度より減少している。 ・アンケートで100%の職員が、タイムマネジメントを意識して、業務改善に努めることができた」と答えた。	A	・様々な工夫により、先生方の負担を減らせている取組だと思う。先生方が有意義に使える時間が増えると、子供たちにも向ける時間も増えてよと思う。 ・先生方が笑顔で仲良く働いているかどうかは、重要なことだと思う。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○チーム学校としての取組の推進	○地域連携、幼保小連携、小中・小中連携、外部機関との連携の推進	○「効果的な地域連携、幼保小連携、小中・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師80%以上	・児童の安全確保や各種行事の効果的・効率的な実施のために地域との連携を図る。 ・小1ギャップや中1ギャップの軽減のために、幼保小連携、小中・小中連携の推進を図る。 ・配慮を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等外部機関との連携を図る。	B	・効果的な地域連携、幼保小連携、小中・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師は100%だった。 ・小中連携はできたが、小中連携や幼保小連携はあまりできていない。後期に、東小6年生との交流会や幼稚園生との交流会を計画している。 ・読み聞かせや講話を聞いたり、見学をしたり、地域の方との交流ができた。 ・配慮を要する児童のために、定期的にSCやSSWとの情報共有を行い、協力していただいている。	A	・小中連携として中学生が本校に訪問して挨拶運動やボランティア、「ようこそ先輩」の交流会などを行ったり、小中連携として6年生が東小小に出向いて交流会をしたり、4年生が東小児童と一緒に体験活動をした。また、幼保小連携として1年生と東小入学生予定の幼児との交流会を行った。 ・5年生の稲作体験学習も実施し、3年生の社会科見学、読み聞かせ、SSWや民生委員や児童委員との情報交換等、地域の方の力もお借りしながら児童や家庭への支援ができた。	A	・地域との交流や小中学生の交流などは大切だと思う。 ・中学生が小学校での朝の挨拶運動を行うことなどもあり、交流ができていよと思う。 ・地域人材を活用し、様々な交流ができていくことは良い。	【三校合同連携部】 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・教育相談担当 ・教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のアンケートへの対応や教職員による日頃の継続的な見取りを丁寧に行ってきたことで、いじめの未然防止や早期発見ができ、児童は安心して学校生活を送ることができた。 様々な業務改善策に取り組んできたことで、職員のタイムマネジメントへの意識が高まり、時間と気持ちに余裕を持って業務に取り組んだ職員が増えた。 国語、算数共に学力の定着に課題が残った。今後、読む力を高めるために読書の推奨をし、表現力を伸ばすために話し合いや自分の考えを書く活動を取り入れるなどの授業改善を行い、学力の向上を図りたい。
----------------	---